

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 水戸自動車大学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	二級自動車整備	夜・通信	174	160	
	一級自動車整備	夜・通信	340	320	
工業専門課程	車体整備	夜・通信	256	240	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.mito.ac.jp/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 水戸自動車大学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.mito.ac.jp/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	旅行会社 相談役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	企画
非常勤	一般企業 社取締役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	コンプライアンス
非常勤	一般企業 支店長	令和6.4.1～ 令和9.3.31	労務
(備考)			

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 水戸自動車大学校
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備、車体整備、一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業時間、到達目標、成績評価に準ずる。 ・職業実践委員会（8月・3月）にて協議し変更がある場合、新しい授業計画（シラバス）を作成し国土交通省に提出する。 ・日本自動車整備振興会連合会発行による教科書の改訂があった場合、新しい授業計画（シラバス）を作成し国土交通省に提出する。	
授業計画書の公表方法	https://www.mito.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備、車体整備、一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施する。 ・学則第 12 条（成績評価）に定める授業科目の成績評価は、学期末において行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案し行う。 ・各教科の修了は、全科目の履修時間が学則第 10 条別表に定める授業時数の 100%であるものとする。 ・進級及び卒業の確定は、素行状況並びに学科教科及び実習教科が修了したもので総合して校長が行う。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・毎年、あらかじめ設定した算出方法により、生徒ごとに履修科目の成績評価を100点満点で点数化し、全科目の平均を算出する。また、その平均成績の分布と下位1/4に該当する人数及びその指標の数値を学科、学年ごとに算出している。国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備、車体整備、一級自動車整備の試験による成績＋実務作業＋人物評価＋出席状況＋授業態度＋レポート評価の総合基準に準ずる。 ・学則第12条（成績評価）に定める、授業科目の成績評価は、学期末において行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案し行う。 ・各教科の合格は100点満点による70点以上とする。 ・再試験で合格した者には70点と記録する。 ・教科の出席率（補習を含む）が100%未満のものは、成績を記録しない。 ・試験は、学科については筆記試験、実習については実技試験を行う。ただし、場合によっては、口頭試問若しくは研究調査報告をもって、これに代えることができる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.mito.ac.jp/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備、車体整備、一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価を基に卒業認定を実施する。 ・進級及び卒業の確定は、素行状況並びに学科教科及び実習教科が修了したもので総合して校長が行う。 ・各教科の修了は、全科目の履修時間が学則第10条に定める授業時数の100%である者とする。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.mito.ac.jp/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 水戸自動車大学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mito.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	https://www.mito.ac.jp/
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧・配布
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧・配布
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧・配布

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工 業		工業専門課程	二級自動車整備	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1986. 4 単位時間／単位	763 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1223. 4 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		39 人	0 人	4 人	0 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備の学科・実習授業科目、授業時間に準ずる。 ・授業計画の変更があった場合は年度末迄に作成し国土交通省に提出。
成績評価の基準・方法
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する二級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ卒業・進級認定を実施する。
学修支援等
（概要） ・担任制度（副担任含む）。 ・未履修時限、未履修授業科目のサポート。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 (100%)	0 人 (0%)	33 人 (100%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等）茨城トヨタ、茨城トヨペット、茨城日産、茨城ダイハツ、スズキ 自販茨城、北関東マツダ、ホンダカーズ茨城、ネッツトヨタ茨城、ネッツトヨタ水戸、 トヨタカローラ新茨城、トヨタカローラ南茨城、茨城ヤナセ、茨城スバル、茨城三菱自 動車、茨城いすゞ、茨城日野自動車、日産プリンス茨城販売、トヨタ L&F 茨城等			
（就職指導内容） 受験希望企業へ会社訪問を行い、採用試験受験企業を決定。ビジネスマナー、面接指導、 筆記試験対策、実技試験対策（実習作業指導）等を行う。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士の受験資格、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57 人	6 人	10.5%
（中途退学の主な理由） ・成績不振、学習意欲の低下、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・学力においては補習等に対応、欠席者に直近の補習を促進、退学ではなく休学を進言。 ・悩みを抱える学生に対しカウンセラーによる相談窓口を設けている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工 業		工業専門課程	一級自動車整備				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	4076.8 単位時間／単位	1289 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	2787.8 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人		15 人	0 人	2 人	0 人	2 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
・国土交通省の定める一種養成施設に関する一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業時間に準ずる。 ・授業計画の変更があった場合は年度末迄に作成し国土交通省に提出。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する一級自動車整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ卒業・進級認定を実施。	
学修支援等	
（概要） ・担任制度（副担任含む）。 ・未履修時限、未履修授業科目のサポート。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等）茨城トヨタ、茨城トヨペット、茨城日産、茨城ダイハツ、スズキ自販茨城、北関東マツダ、ホンダカーズ茨城、ネッツトヨタ茨城、ネッツトヨタ水戸、トヨタカローラ新茨城、トヨタカローラ南茨城、茨城ヤナセ、茨城スバル、茨城三菱自動車、茨城いすゞ、茨城日野自動車、日産プリンス茨城販売、トヨタL&F 茨城等			
（就職指導内容） 受験希望企業へ会社訪問を行い、採用試験受験企業を決定。ビジネスマナー、面接指導、筆記試験対策、実技試験対策（実習作業指導）等を行う。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士、一級自動車整備士の受験資格			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・学力においては補習等に対応、欠席者に直近の補習を促進、退学ではなく休学を 進言。		
・悩みを抱える学生に対しカウンセラーによる相談窓口を設けている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工 業		工業専門課程	車体整備		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2978. 4 単位時間／単位	1041 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1937. 4 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人		7 人	0 人	1 人	0 人	1 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
・国土交通省の定める一種養成施設に関する車体整備の学科・実習授業科目、授業時間に準ずる。 ・授業計画の変更があった場合は年度末迄に作成し国土交通省に提出。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する車体整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ履修認定を実施。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・国土交通省の定める一種養成施設に関する車体整備の学科・実習授業科目、授業履修時間、授業態度、レポート、成績評価に準じ卒業・進級認定を実施。	
学修支援等	
（概要） ・担任制度（副担任含む）。 ・未履修時限、未履修授業科目のサポート。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等）茨城トヨタ、茨城トヨペット、茨城日産、茨城ダイハツ、スズキ自販茨城、北関東マツダ、ホンダカーズ茨城、ネッツトヨタ茨城、ネッツトヨタ水戸、トヨタカローラ新茨城、トヨタカローラ南茨城、茨城ヤナセ、茨城スバル、茨城三菱自動車、茨城いすゞ、茨城日野自動車、日産プリンス茨城販売、トヨタ L&F 茨城等			
（就職指導内容） 受験希望企業へ会社訪問を行い、採用試験受験企業を決定。ビジネスマナー、面接指導、筆記試験対策、実技試験対策（実習作業指導）等を行う。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士・車体整備士の受験資格、有機溶剤作業主任者			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
・学力においては補習等に対応、欠席者に直近の補習を促進、退学ではなく休学を 進言。 ・悩みを抱える学生に対しカウンセラーによる相談窓口を設けている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
自動車	150,000 円	630,000 円	815,000 円	その他(施設設備費 260,000 円、
車 体	150,000 円	630,000 円	815,000 円	実習費 260,000 円、教材費等
1 級	150,000 円	630,000 円	815,000 円	240,000 円、学生研修費 51,750 円
	円	円	円	保険料等 3,250 円)
修学支援(任意記載事項)				
通学支援として定期券半額補助やスクールバスの運行、一人暮らし支援、特待生制度による学費免除、学生支援センターによる学費相談を行っている。入学者の保護者または兄弟姉妹が、八文字学園の卒業生(または在校生)であることによって入学金から 10 万円の免除とする。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 教育課程編成委員会を通期開催し、審議する案件を協議し教育活動を決定する。年度末、学校自己評価報告書に基づき企業からの選抜された委員に、学校関係者評価委員による評価をつけてもらい、次年度の改善等を実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
茨城ダイハツ販売株式会社 取締役 管理本部長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
株式会社スズキ自販茨城 常務執行役員 サービス部品本部長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
茨城トヨペット株式会社 管理部 人事課 課長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
株式会社北関東マツダ 管理部 人材開発グループ グループ長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
茨城トヨタ自動車株式会社 総務部人事グループ チームリーダー係長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
株式会社 茨日ホールディング 人材開発部 教育Gr/監査Gr 係長	2022 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.mito.ac.jp/p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H108320100121
学校名（〇〇大学 等）	専門学校 水戸自動車大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		16人	15人	16人
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	0
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				16人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

＊添付資料「客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料」

令和5年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	自動車整備学科	学 年	1	学生数	18	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	2	2	7	5	2
下位1/4に該当する人数			5 人			
下位1/4に該当する指標の数値			70.8 点以下			

客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	自動車整備学科	学 年	2	学生数	33	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	1	2	6	15	9
下位1/4に該当する人数			9 人			
下位1/4に該当する指標の数値			75.4 点以下			

客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
* 単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	車体整備学科	学 年	1	学生数	2	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	0	1	1
下位1/4に該当する人数			1 人			
下位1/4に該当する指標の数値			90.0 点以下			
客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
* 単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	車体整備学科	学 年	2	学生数	3	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	0	2	1
下位1/4に該当する人数			1 人			
下位1/4に該当する指標の数値			88.0 点以下			
客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
* 単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	車体整備学科	学 年	3	学生数	3	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	2	1	0
下位1/4に該当する人数			1 人			
下位1/4に該当する指標の数値			77.4 点以下			

客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	一級自動車整備学科	学 年	1	学生数	6	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	2	3	1
下位1/4に該当する人数			2 人			
下位1/4に該当する指標の数値			76.7 点以下			
客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	一級自動車整備学科	学 年	2	学生数	5	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	0	3	2
下位1/4に該当する人数			2 人			
下位1/4に該当する指標の数値			85.8 点以下			
客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	一級自動車整備学科	学 年	3	学生数	3	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	0	2	1
下位1/4に該当する人数			1 人			
下位1/4に該当する指標の数値			85.0 点以下			

客観的な指標の算出方法						
履修科目、全科目合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
＊ 単元テスト1回目の単元成績を算出						
学科名	一級自動車整備学科	学 年	4	学生数	3	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51	61	71	81	91
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人 数	0	0	0	0	0	3
下位1/4に該当する人数		1 人				
下位1/4に該当する指標の数値		91.3 点以下				

実務経験のある教員等による授業科目一覧

<二級自動車整備学科>

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
基礎自動車工学	沼口洋・近馬克之・仲田格	15	○
ガソリン1	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
ガソリン2	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ガソリン3	大森秀幸・仲田格	14	○
ガソリン4	大森秀幸・仲田格	13	○
ジーゼル1	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ジーゼル2	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
ジーゼル3	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
ジーゼル4	大森秀幸・仲田格	22	○
シャシ1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
シャシ2	沼口洋・近馬克之・仲田格	30	○
シャシ3	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
シャシ4	大森秀幸・仲田格	19	○
シャシ5	大森秀幸・仲田格	23	○
力数 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
力数 2	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
力数 3	大森秀幸・仲田格	13	○
力数 4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
電子工学2	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
電子工学3	沼口洋・近馬克之・仲田格	9	○
電子工学4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学5	大森秀幸・仲田格	13	○
材料	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
燃料・潤滑	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
図面	大森秀幸・仲田格	11	○
自動車工学演習	大森秀幸・仲田格	20	○
ガソリン5	沼口洋・近馬克之・仲田格	17	○
ガソリン6	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
ジーゼル5	大森秀幸・仲田格	20	○
シャシ6	沼口洋・近馬克之・仲田格	22	○
シャシ7	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
シャシ8	大森秀幸・仲田格	11	○
シャシ9	大森秀幸・仲田格	19	○
電子工学6	大森秀幸・仲田格	19	○
故障探求	大森秀幸・仲田格	15	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
自動車整備演習	大森秀幸・仲田格	50	○
整備機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
測定	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査	大森秀幸・仲田格	24	○
法令1	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
法令2	大森秀幸・仲田格	15	○
(情報技術1)	大内敏郎	20	
(情報技術2)	大内敏郎	20	
(文書技法1)	大内敏郎	20	
(倫理社会1)	近馬克之	5	○
機械工作作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
計測作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エンジン本体	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
G噴射装置	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
ジーゼル整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
二輪2	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
重整備	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
タイヤ整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
動力伝達装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ステアリング装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ブレーキ装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
サスペンション	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
二輪1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
トラック整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
A/T	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
二輪3	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構2	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
基本点検作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
基礎電気	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
電気装置1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
電気装置2	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エアコンシステム	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
車体電装1	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
車体電装2	大森秀幸・芹田里美	30.2	○
ガソリン診断	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
故障探求	大森秀幸・芹田里美	47.4	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目	
問診整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○	
二輪車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○	
車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○	
単位時間総数		1986.4	実務経験のある教員等による授業科目単位時間	1926.4単位時間

実務経験のある教員等による授業科目一覧

<一級自動車整備学科>

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
基礎自動車工学	沼口洋・近馬克之・仲田格	15	○
ガソリン1	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
ガソリン2	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ガソリン3	大森秀幸・仲田格	14	○
ガソリン4	大森秀幸・仲田格	13	○
ジーゼル1	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ジーゼル2	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
ジーゼル3	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
ジーゼル4	大森秀幸・仲田格	22	○
シャシ1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
シャシ2	沼口洋・近馬克之・仲田格	30	○
シャシ3	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
シャシ4	大森秀幸・仲田格	19	○
シャシ5	大森秀幸・仲田格	23	○
力数 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
力数 2	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
力数 3	大森秀幸・仲田格	13	○
力数 4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
電子工学2	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
電子工学3	沼口洋・近馬克之・仲田格	9	○
電子工学4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学5	大森秀幸・仲田格	13	○
材料	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
燃料・潤滑	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
図面	大森秀幸・仲田格	11	○
自動車工学演習	大森秀幸・仲田格	20	○
ガソリン5	沼口洋・近馬克之・仲田格	17	○
ガソリン6	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
ジーゼル5	大森秀幸・仲田格	20	○
シャシ6	沼口洋・近馬克之・仲田格	22	○
シャシ7	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
シャシ8	大森秀幸・仲田格	11	○
シャシ9	大森秀幸・仲田格	19	○
電子工学6	大森秀幸・仲田格	19	○
故障探求	大森秀幸・仲田格	15	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
自動車整備演習	大森秀幸・仲田格	50	○
整備機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
測定	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査	大森秀幸・仲田格	24	○
法令1	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
法令2	大森秀幸・仲田格	15	○
(情報技術1)	大内敏郎	20	
(情報技術2)	大内敏郎	20	
(文書技法1)	大内敏郎	20	
(倫理社会1)	近馬克之	5	○
機械工作作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
計測作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エンジン本体	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
G噴射装置	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
ジーゼル整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
二輪2	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
重整備	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
タイヤ整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
動力伝達装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ステアリング装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ブレーキ装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
サスペンション	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
二輪1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
トラック整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
A/T	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
二輪3	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構2	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
基本点検作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
基礎電気	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
電気装置1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
電気装置2	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エアコンシステム	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
車体電装1	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
車体電装2	大森秀幸・芹田里美	30.2	○
ガソリン診断	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
故障探求	大森秀幸・芹田里美	47.4	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
問診整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
二輪車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○
車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○
自動車工学1	平根清一・今川義光	10	○
自動車工学2	平根清一・今川義光	25	○
自動車工学3	平根清一・今川義光	25	○
電子工学	平根清一・今川義光	50	○
エンジン工学	平根清一・今川義光	26	○
システム工学1	平根清一・今川義光	30	○
システム工学2	平根清一・今川義光	33	○
システム工学3	平根清一・今川義光	24	○
システム工学4	平根清一・今川義光	55	○
高度故障診断技術1	平根清一・今川義光	16	○
高度故障診断技術2	平根清一・今川義光	16	○
総合診断	平根清一・今川義光	10	○
環境保全論	平根清一・今川義光	10	○
安全管理学	平根清一・今川義光	10	○
自動車機器	平根清一・今川義光	18	○
自動車検査	平根清一・今川義光	6	○
法令	平根清一・今川義光	12	○
自動車概論	平根清一・今川義光	80	○
情報技術3	平根清一・今川義光	20	
環境論	平根清一・今川義光	30	○
経営学	平根清一・今川義光	20	
工作作業	平根清一・今川義光	14	○
測定作業	平根清一・今川義光	14	○
エンジン本体G	平根清一・今川義光	42	○
エンジン本体D	平根清一・今川義光	42	○
特殊機構	平根清一・今川義光	42	○
燃料装置G	平根清一・今川義光	42	○
燃料装置D	平根清一・今川義光	42	○
動力伝達	平根清一・今川義光	42	○
ステアリング装置	平根清一・今川義光	42	○
ブレーキ装置	平根清一・今川義光	42	○
サスペンション	平根清一・今川義光	42	○
基礎電装	平根清一・今川義光	42	○
応用電装	平根清一・今川義光	42	○
故障探究1	平根清一・今川義光	42	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目	
故障探究2	平根清一・今川義光	42	○	
故障探究3	平根清一・今川義光	35	○	
検査作業	平根清一・今川義光	24.4	○	
ビジネスマナー	平根清一・今川義光	14	○	
体験実習	平根清一・今川義光	210	○	
基礎実習	平根清一・今川義光	35	○	
総合実習	平根清一・今川義光	672	○	
単位時間総数		4076.8	実務経験のある教員等による授業科目単位時間	3976.8単位時間

実務経験のある教員等による授業科目一覧

<車体整備学科>

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
基礎自動車工学	沼口洋・近馬克之・仲田格	15	○
ガソリン1	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
ガソリン2	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ガソリン3	大森秀幸・仲田格	14	○
ガソリン4	大森秀幸・仲田格	13	○
ジーゼル1	沼口洋・近馬克之・仲田格	7	○
ジーゼル2	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
ジーゼル3	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
ジーゼル4	大森秀幸・仲田格	22	○
シャシ1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
シャシ2	沼口洋・近馬克之・仲田格	30	○
シャシ3	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
シャシ4	大森秀幸・仲田格	19	○
シャシ5	大森秀幸・仲田格	23	○
力数 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	23	○
力数 2	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
力数 3	大森秀幸・仲田格	13	○
力数 4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学 1	沼口洋・近馬克之・仲田格	16	○
電子工学2	沼口洋・近馬克之・仲田格	25	○
電子工学3	沼口洋・近馬克之・仲田格	9	○
電子工学4	大森秀幸・仲田格	13	○
電子工学5	大森秀幸・仲田格	13	○
材料	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
燃料・潤滑	沼口洋・近馬克之・仲田格	8	○
図面	大森秀幸・仲田格	11	○
自動車工学演習	大森秀幸・仲田格	20	○
ガソリン5	沼口洋・近馬克之・仲田格	17	○
ガソリン6	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
ジーゼル5	大森秀幸・仲田格	20	○
シャシ6	沼口洋・近馬克之・仲田格	22	○
シャシ7	沼口洋・近馬克之・仲田格	10	○
シャシ8	大森秀幸・仲田格	11	○
シャシ9	大森秀幸・仲田格	19	○
電子工学6	大森秀幸・仲田格	19	○
故障探求	大森秀幸・仲田格	15	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目
自動車整備演習	大森秀幸・仲田格	50	○
整備機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	13	○
測定	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査機器	沼口洋・近馬克之・仲田格	12	○
検査	大森秀幸・仲田格	24	○
法令1	沼口洋・近馬克之・仲田格	11	○
法令2	大森秀幸・仲田格	15	○
(情報技術1)	大内敏郎	20	
(情報技術2)	大内敏郎	20	
(文書技法1)	大内敏郎	20	
(倫理社会1)	近馬克之	5	○
機械工作作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
計測作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エンジン本体	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
G噴射装置	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
ジーゼル整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
二輪2	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
重整備	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
タイヤ整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
動力伝達装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ステアリング装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
ブレーキ装置	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
サスペンション	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
二輪1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
トラック整備	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
A/T	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
二輪3	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
特殊機構2	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
基本点検作業	沼口洋・近馬克之・芹田里美	33.4	○
基礎電気	沼口洋・近馬克之・芹田里美	24.2	○
電気装置1	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
電気装置2	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○
エアコンシステム	大森秀幸・芹田里美	35.6	○
車体電装1	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
車体電装2	大森秀幸・芹田里美	30.2	○
ガソリン診断	大森秀幸・芹田里美	47.4	○
故障探求	大森秀幸・芹田里美	47.4	○

科目名	担当者名	単位時間	実務経験のある教員等による授業科目	
問診整備	沼口洋・近馬克之・芹田里美	47.4	○	
二輪車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○	
車検整備	大森秀幸・芹田里美	30.2	○	
材料	笹目高弘	12	○	
力学	笹目高弘	12	○	
構造機能	笹目高弘	12	○	
板金Ⅰ	笹目高弘	40	○	
板金Ⅱ	笹目高弘	40	○	
塗装Ⅰ	笹目高弘	30	○	
塗装Ⅱ	笹目高弘	25	○	
損傷診断	笹目高弘	10	○	
総合演習	笹目高弘	67	○	
自動車検査	笹目高弘	10	○	
板金Ⅰ	笹目高弘	204	○	
板金Ⅱ	笹目高弘	91.8	○	
塗装Ⅰ	笹目高弘	136	○	
塗装Ⅱ	笹目高弘	74.8	○	
損傷診断	笹目高弘	27.2	○	
総合実習	笹目高弘	153	○	
自動車検査	笹目高弘	27.2	○	
(情報技術3)	大内敏郎	20		
単位時間総数		2978.4	実務経験のある教員等による授業科目単位時間	2898.4単位時間

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	1 年 前期	授業時間数	25.0
科目名	ガソリン1	実務経験教員	有（ディーラー） 11年、6年、3年
担当教員	沼口 洋 近馬 克之 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会

2級ガソリン

3級ガソリン

《授業科目概要》

2級ガソリン 総論、エンジン本体Ⅱについて学ぶ

3級ガソリン 総論、エンジン本体Ⅰについて学ぶ

《授業の目的・目標》

自動車に搭載されているエンジンの分類と特徴を理解し説明ができる。

4ストローク1サイクルエンジンの作動(各行程)及びバルブタイミングダイアグラムを説明できる。エンジン各部の構成部品(シリンダ・ヘッド～カムシャフト)の名称、役割、構造、作動を説明できる。熱効率、排出ガスの種類、特性、対策を理解し説明できる。

可変バルブ機構について役割、作動を理解し説明できる。

《授業の概要・授業方針》

エンジンは種類から説明しその特徴や性能について理解させる。1サイクルの作動行程の各部品の動きについては実物と図を用いて確認させ理解させる。エンジン内部に入り構成部品、名称、役割を理解させ各部品の連動した動きを伝える。可変バルブについては基本となるバルブ機構習得後に役割や作動説明を行う。熱効率及び排出についても行程と関連させ説明を行う。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	1 年 前期	授業時間数	1 5 . 0
科目名	基礎自動車工学	実務経験教員	有（ディーラー） 11 年、6 年、3 年
担当教員	沼口 洋 近馬 克之 仲田 格 国家 2 級自動車整備士 国家 1 級自動車整備士 国家 2 級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会 基礎自動車工学

《授業科目概要》

自動車の概要、自動車の構造、自動車の機械要素、機械及び潤滑剤、基礎的な原理原則
自動車の諸元について学ぶ

《授業の目的・目標》

1. 自動車の分類ができるようになる。（車両法、用途、エンジン・駆動輪の位置等）
2. 自動車の基本構造、構成部品を理解する。（エンジン、シャシ、電装等）
3. 自動車に使用される機械要素（ねじ、ギヤ、ベアリング等）を理解する。

《授業の概要・授業方針》

1. 自動車の分類ができ、説明できるようになる。
2. 自動車の基本構造、構成部品、役割について簡単に説明できるようになる。
3. 自動車に使用されている部品の機械要素について簡単に説明できるようになる。

《成績基準・評価基準》

90 点以上：A 80～89 点：B 70～79 点：C 70 点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	1 年 前期	授業時間数	1 6 . 0
科目名	電子工学 1	実務経験教員	有（ディラー） 11 年、6 年、3 年
担当教員	沼口 洋 近馬 克之 仲田 格 国家 2 級自動車整備士 国家 1 級自動車整備士 国家 2 級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会 基礎自動車工学 2 級・3 級ガソリン
基礎的な原理・原則（電機と磁気）電気装置Ⅰ、Ⅱ、半導体、バッテリー

《授業科目概要》

電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。

電子・電気関係（計算含む）、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、

《授業の目的・目標》

自動車に使用されている電装品の種類、役割を説明できる。

電気の基礎（電流、電圧、抵抗等）、オームの法則、電気と磁気の関係性を説明できる。

半導体の特性を理解する。

自動車用バッテリーの仕組みを理解し、起電の原理が説明できる。

《授業の概要・授業方針》

自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。

《成績基準・評価基準》

90 点以上：A 80～89 点：B 70～79 点：C 70 点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	1 年 前期	授業時間数	23.0
科目名	力数1	実務経験教員	有（ディーラー） 11年、6年、3年
担当教員	沼口 洋 近馬 克之 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

聖研出版社 計算問題を解くノウハウ 自動車整備士2級・3級
基礎自動車工学・基礎知識、基礎的な原理原則、基礎自動車工学、自動車の諸元

《授業科目概要》

自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する。

《授業の目的・目標》

力と、質量、トルクとモーメント計算について、説明出来るようになる。
排気量、圧縮比、ピストン速度について理解し計算できる。
自動車の変速、変速比について理解する。

《授業の概要・授業方針》

自動車の基礎知識および原理の概要を習得し、エンジン系、シャシ系の計算を理解する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する。

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	2年 前期	授業時間数	22.0
科目名	ジーゼル4	実務経験教員	有（ディーラー） 2年、3年
担当教員	大森 秀幸 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会
2級ジーゼル
3級ジーゼル

《授業科目概要》

2級ジーゼル 燃料装置、吸排気装置について学ぶ
3級ジーゼル 燃料装置について学ぶ

《授業の目的・目標》

近年の排気ガス対策として登場した、コモンレール噴射装置について構造・制御を理解する。またそれに付随する、排気ガスの後処理装置について、必要性を学び、構造を理解する。

《授業の概要・授業方針》

コモンレール噴射装置については、主要部品の構造・作動を理解したうえで、ECUの噴射制御について学ぶ。後処理装置については、酸化触媒と尿素SCRシステムの必要性を考え、機能・構造を理解する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	2年 前期	授業時間数	19.0
科目名	シャシ4	実務経験教員	有（ディーラー） 2年、3年
担当教員	大森 秀幸 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会 2級シャシ 3級シャシ

《授業科目概要》

ホイールアライメントⅡ ブレーキ装置Ⅱ フレーム及びボディー

《授業の目的・目標》

ホイール、アライメント、ブレーキの必要性和概要
フレーム及びボディーの構造について修得させる。

《授業の概要・授業方針》

ホイール・アライメントの必要性和その影響、ブレーキの構造、機能、フレーム及びボディーの特長と名称を熟知させる。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	2年 後期	授業時間数	24.0
科目名	検 査	実務経験教員	有（ディーラー） 2年、3年
担当教員	大森 秀幸 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》
日本自動車整備振興会連合会
2級シャシ

《授業科目概要》
保安基準適合性確保の点検について学ぶ

《授業の目的・目標》
道路運送車両法に準ずる点検方法を認識させる。

《授業の概要・授業方針》
必要性和安全性、そして環境に基づくことが骨子にあることを理解させる。

《成績基準・評価基準》
90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	2年 後期	授業時間数	15.0
科目名	故障探求	実務経験教員	有（ディーラー） 2年、3年
担当教員	大森 秀幸 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会

2級ガソリン

2級ジーゼル

2級シャシ

《授業科目概要》

2級ガソリン 故障原因探求について学ぶ

2級ジーゼル 故障原因探求について学ぶ

2級シャシ 故障原因探求について学ぶ

《授業の目的・目標》

近年の自動車は大幅な電子制御化が進んでおり、故障した場合の対処方法も以前の自動車とは大きく異なってきている。この単元は今まで学習した電子制御技術を理解したうえで、トラブルを起こした場合、いかに的確な問診を行い、正しい手順で原因を追究し、確実にトラブルから復旧できるよう知識を身に着けることを目的とする。

《授業の概要・授業方針》

ユーザーからの状況の問診方法や、電子制御化されたシステムにおいて、ECUの自己診断機能を外部診断器を使用して故障箇所を特定していく方法、サーキットテスタを使用したワイヤハーネスなどの断線・短絡の確認方法を習得する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	二級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	2年 後期	授業時間数	15.0
科目名	法令2	実務経験教員	有（ディーラー） 2年、3年
担当教員	大森 秀幸 仲田 格 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士 国家2級二輪自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

公論出版
法令教本

《授業科目概要》

道路運送車輛法と保安基準、自動車点検基準について学ぶ

《授業の目的・目標》

道路運送車輛法と保安基準、自動車点検基準について理解する。また、二級国家試験合格レベルの知識を習得する。

《授業の概要・授業方針》

法令教本に基づいて内容を理解すると共に、二級国家試験の過去問題のプリントを行って理解を深める。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	一級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 前期	授業時間数	26.0
科目名	エンジン工学	実務経験教員	有（ディーラー） 17年
担当教員	平根 清一 今川 義光 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会 一級自動車整備士 自動車新技術

《授業科目概要》

エンジン、筒内噴射式ガソリン・エンジン、コモン・レール式高圧燃料噴射システムについて学ぶ。

《授業の目的・目標》

筒内噴射式ガソリン・エンジン、コモン・レール式高圧燃料噴射システムについて理解させる。

《授業の概要・授業方針》

筒内噴射式ガソリン・エンジンの特徴である成層燃焼と均質燃焼と分けることにより、「低燃費・高出力・環境への配慮」を追求したエンジンとして構造・機能、点検・整備について学習する。コモン・レール式高圧燃料噴射システムの特徴である高圧燃料噴射により PM と NO_x の低減をするための構造・機能、点検・整備について学習する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	一級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 前期	授業時間数	30.0
科目名	システム工学1	実務経験教員	有（ディーラー） 17年
担当教員	平根 清一 今川 義光 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

日本自動車整備振興会連合会 一級自動車整備士 自動車新技術

《授業科目概要》

シャシ、無段変速機、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ及びテンショナー・シート・ベルトについて学ぶ

《授業の目的・目標》

無段変速機、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ及びテンショナー・シート・ベルトについて理解させる。

《授業の概要・授業方針》

無段変速機、車両安定制御装置の構造・機能、点検・整備について学習する。
SRSエア・バッグ及びテンショナー・シート・ベルトの構造・機能、整備、点検・整備のポイント、SRSエア・バッグの廃棄要領について学習する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	一級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 後期	授業時間数	30.0
科目名	環境論	実務経験教員	有（ディーラー） 17年
担当教員	平根 清一 今川 義光 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト（東京商工会議所）

《授業科目概要》

環境に関することについて学ぶ

《授業の目的・目標》

環境社会検定試験（eco 検定）に合格できる知識の習得及び自らが持続可能な社会の実現に向けて考え、行動できるようになるための知識等を養う。

《授業の概要・授業方針》

環境問題に取り組んでいく上で必要とされる基礎的な知識、考え方を習得し、人間が将来にわたって地球の環境から、その恩恵を享受し、発展し続けていくためには「持続可能な開発」の考え方に基づく行動が必要であるということを学ぶ。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）
授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	一級自動車整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	4年 前期	授業時間数	80.0
科目名	自動車概論	実務経験教員	有（ディーラー） 17年
担当教員	平根 清一 今川 義光 国家2級自動車整備士 国家1級自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

《授業科目概要》

自動車構造整備全般について学ぶ

《授業の目的・目標》

一級自動車整備士技能検定に合格できる技能・知識の習得及び職場での自動車整備作業において必要な各種新技術の構造・機能の理解、注意点等の知識を養う。

《授業の概要・授業方針》

現在の自動車の構造・機能は、安全・環境保全の対策に加えてエンジン性能及び操縦安定性の向上や快適性を重視するため、各装置の電子制御化が進み、今後ますます高度化、多様化する傾向にあるので、これらの技術全般についての学習をする。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	車体整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 前期	授業時間数	12.0
科目名	材 料	実務経験教員	有（ディーラー） 3年
担当教員	笹目 高弘 国家2級自動車整備士 国家車体自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

車体整備協同組合連合会 車体整備士テキスト

《授業科目概要》

自動車を構成する材料には、多くの材料があるため材料構成、諸性質などを学ぶ

《授業の目的・目標》

自動車を構成する材料にはきわめて多くの種類があり、それらは使用目的に応じた諸性能、量産性、経済性、リサイクル容易性などの制約によって適宜、選択採用される。その、材料の種類、性質などを理解する。

《授業の概要・授業方針》

自動車材料を大きく分別すると、金属材料と非金属材料とに大別される。このうち金属材料は単一元素として用いられることは少なく、合金として使用されるが、その種類、性質を理解する。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	車体整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 前期	授業時間数	30.0
科目名	塗装 I	実務経験教員	有（ディーラー） 3年
担当教員	笹目 高弘 国家2級自動車整備士 国家車体自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

車体整備協同組合連合会 車体整備士テキスト

《授業科目概要》

塗料の構成・塗料の種類・使用目的及び危険物の取扱い、塗装工程や塗装条件及び樹脂部品の保全と作業者の安全衛生について学ぶ

《授業の目的・目標》

塗装材料、環境の保全と作業者の安全衛生、塗料の取り扱い、管理について学ぶ。

《授業の概要・授業方針》

車体整備に従事する者が塗装作業について理解しておかなければならない項目について理解させる。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する

【実務経験のある教員等による授業科目】

学 科	車体整備	分 野	工 業
分 類	必 須	授業形態	講 義
開講期	3年 前期	授業時間数	40.0
科目名	板金 I	実務経験教員	有（ディーラー） 3年
担当教員	笹目 高弘 国家2級自動車整備士 国家車体自動車整備士		

《使用教科書・参考図書》

車体整備協同組合連合会 車体整備士テキスト

《授業科目概要》

損傷の種類及び損傷部分に生じる応力などを学び、車体整備を行っていくうえで必要な基礎知識を学ぶ

溶接機（ミグ・スポット、ガス溶接機など）の構造や作動原理および使用目的などについて学ぶ

《授業の目的・目標》

電気抵抗スポット溶接が自動車に用いられる理由、注意事項などを理解する。また、ガス・シールド・アーク溶接、ガス溶接についても同様に理解する。

《授業の概要・授業方針》

国家試験出題頻度が高い内容なので、過去問などを参考に的を絞った授業をする。

《成績基準・評価基準》

90点以上：A 80～89点：B 70～79点：C 70点未満：D（不可）

授業態度＋学習態度＋人物評価＋レポート評価等を総合的に判断して評価する